

セッション4

ミニストリーの性質

社会の中で信仰によって生きる

教師用ガイド

ミニストリーの性質

今週の読書課題

論文（読み物）『ミニストリーの性質』は、マクロな観点からミニストリーを捉えており、墮落以前の文化命令と十字架以後の大宣教命令についての考察を通して、今日の世において私たちに与えられた贖いの責任とは何であるかについて説明しています。

すべてのものをキリストの主権のもとに回復させたいと願う私たちのミニストリーには、宣べ伝えること、社会的な奉仕、文化的な関わりの3つの側面があります。

教師のための覚え書き

この論文は、私たちが世にあっていかに贖いの行いをすることができるかを示すために、次の2点をねらいとしています。すなわち、私たちのミニストリー観の中に、文化的な関わりという側面と社会的な奉仕という側面を加えること、そして、構造と方向性という概念を取り入れることの2点です。

この課では、引き続き、包括的にミニストリーに取り組むとはどういうことであるか、明確にしていくことを目的としています。

追加読書課題

アルバート・ウォルターズ著「Creation Regained（再び獲得された創造）」

学びの構成

この課の学びには2時間半を予定してください。

20分間

導入：ミニストリーの一貫性についてのディベート

15分間

講義：大宣教命令の遂行

10分間

考察：ミニストリーの一貫性

30分間

ディスカッション：ミニストリーの一貫性

20分間

プロジェクトについてのディスカッション：あらかじめ与えられたプロジェクトについて話し合ってください。どのようにプロジェクトの課題を遂行したか、また、その過程で何を考えたかについて、それぞれ語ってもらってください。

ミニストリーの一貫性についてのディベート 導入とディスカッション

指示事項：グループを2つに分けて、以下の主張を擁護するグループと批判するグループとに分けてください。それぞれのグループに準備する時間として10分間と意見を述べる時間として10分間を与えてください。

「誰でも社会的な奉仕をすることはできるが、伝道はクリスチャンにしかできない。故に、自由主義者やクリスチャンでない人に社会的な奉仕をしてもらい、私たちは伝道に従事する。」

講義

大宣教命令とミニストリーの一貫性

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」マタイ 28：18-20

大宣教命令は、輝かしい主としてのイエス様の御姿を見事に捉えています。イエス様の権威は、天においても地においても、すべての領域に及んでいます。行きなさいというイエス様の命令には、過去の側面(わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい)と、現在の側面(弟子とせよ)とが共に含まれています。このことはイエス様が生きられたいのちにも、又、私たちのいのちにもご計画があり、目的があるということを示しています。また、世の終わりまで、いつも、私たちとともにいてくださるというイエス様の約束には、永遠に持続するという側面があります。イエス様が時間と空間を支配しておられるお方であるということに議論の余地はありません。大宣教命令には、神の御国の場合と同様に、権威と目的と計画が伴っているのです。

大宣教命令について考えるにあたっては、何が言われているかだけでなく、何が言われていないかについて理解することが大切です。私たちは、回心者を作るようには命令されていないことに気がつきましたか。私たちは弟子を作るように命令されているのです。伝道については示唆されてはいますが、はっきりとは述べられていません。もちろん、それは伝道の重要性を減じるものではありません。福音を宣べ伝えることなくしては、あらゆる国の人々を弟子とすることはできないからです。けれども、このことは、イエス様のことばに、より深い意味をもたらしているのです。

私たちは人々を弟子として、バプテスマを授け、そしてイエス様が命じられたすべてのことを守るよう
に教えることを命じられています。イエス様は預言者と律法を成就された方ですから、この箇所は旧約聖書と新約聖書の両方を視野に入れています。「わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守る
ように、彼らを教えなさい」という命令について考えてください。このことばは包括的で、イエス様の
ことばと行動の両方を含んでいます。これは簡単な任務ではありません。

宣べ伝えること、社会的な奉仕、文化的関わり*という観点からミニストリーを定義するならば、ミニ
ストリーには奉仕の行いやあわれみ、社会正義、同情心などイエス様の教えに合致する行為が含まれます。
私たちは伝道できるように人を訓練するだけでなく、イエス様が生きられたようにクリスチャンとし
て生きるように訓練するのです。*(これらの言葉の定義については「ミニストリーの性質」の第4章を
参照してください。)

ジョン・ストットは社会的な行動と伝道について次のように述べています。「それらはどちらにも属しているが、それぞれが独立している。どちらも他のことをするための方法ではなく、また他のものを現すものでもない。どちらもそれ自体が目的である。どちらも、偽りのない愛の表れである。」

私たちが一貫性をもってミニストリーに従事することが出来たならば、イエス様が命じられたことをすべて教えることが重要となってきます。

けれども、すべてを教えるということは、命令の一部に過ぎません。これは命令の深さであると言えます。私たちはまた、あらゆる国に行かなければなりません。これは命令の広さです。命令の深さと広さとのバランスを保つということが、イエス様から任されたことを遂行する上で大変重要です。

すべてのことを守るように教える…

「わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい」とは、何を意味しているのでしょうか。私たちが弟子を育成する時、どこまで徹底しなければならないのでしょうか。パウロにしても、小アジアの各地を急いで回り、歩き始めたばかりの教会に対しては根づかせ成長させるための正式な訓練も施すことなく、これらの新しい教会が福音を広めることができると信頼していました。

「すべてを教える」とは、一人一人の弟子が完全の域に達するまで教えるということの意味する訳ではないと結論づけることは理にかなっていません。より正しくは、イエス様の生と死が持つすべての意味を踏まえて教え、弟子を育てなさいという命令であると理解すべきなのです。教会やクリスチャン一人一人が福音のすべてを生き方で表現することが出来た時、私たちはイエス様が命じられたことのすべてを教えるように整えられているのです。教えられないところは、私たち自身が例となって示すのです。クリスチャンとしての生き方を見て、それが神学の教えを理解する助けとなるのです。

主のいのちと使命を全体像でとらえることは非常に大切です。私たちの新しいいのちの各部分に関する詳細については、生きていくに従ってだんだんと分かっていきます。これは何も、適切な神学が重要ではないとか、聖書を詳細に教えることは間違っているとか言っている訳ではありません。私たちの新しいいのちには一体どのようなことが伴うのか、その全体像を包括的に伝えることが、大宣教命令を遂行する上で欠かせない点であるということを書いておいたのです。イエス様のいのち（生）と死、そして復活を理解するには、イエス様の教えとご自身が示された模範、及び、旧約聖書の教えと様々な例を理解することが大切です。イエス様の教えとその模範を私たち自身が生きて初めて、私たちは大宣教命令に従って弟子を育成することが出来るのです。

大宣教命令を遂行することはすなわち世界宣教を達成することであると考えて、そのことにばかり熱心になるとすると、私たちは命令の深さと広さのバランスがうまく取れていない状態に陥ってしまいます。

キャブレターと車

大宣教命令を単に世界宣教を達成することであると考えれば、私たちは新しいいのちを二元化したり分割する危険を冒してしまいます。

私たちは私たちの新しいいのちを、すなわちキリストのいのちを、世において首尾一貫して生きなけれ

ばなりません。このことは共同体として行われるべきことではありますが、クリスチャンの一人一人に対して求められていることです。私たち一人一人がある定まったいのちについて責任を負っている訳ですから、そのいのちをミニストリーのために細分化することは到底できません。部分を集めても一つの全体とはならないのです。

キリストのいのちを分割して生きようとするとき、私たちは問題にぶつかります。それは、私たちには自動車産業とは違って組み立て工場がありませんし、組み立て工場がなければキャブレターは決して機能する車の一部とはならないからです。

現代のようにパラチャーチの時代にあっては、注意深く考えなければならないことがあります。キリストのからだのある一部分が伝道の責任を引き受け、別の部分が社会正義の責任を引き受けるというやり方で、私たちはキリストのからだとして召されていることを達成することが出来るのでしょうか。

以下にいくつかの追加質問をあげておきます。

1. 私たちがあらゆる国々に行ったとしても、イエス様が命令されたすべてのことを教えないならば、私たちは大宣教命令を遂行したと言えるのでしょうか。
2. 大宣教命令は一回遂行したならばそれで完了というものでしょうか、それとも、ずっと続けるべきものでしょうか。
3. 命令の深さと広さの適切なバランスを保てなくしているものは何でしょうか。
4. 私たちの弟子たちがイエス様が命じられたこと、特にあわれみ、謙遜、奉仕の面で、すべてを守るように教えられたとすれば、福音の伝わり方がどのように違っていた可能性があるのでしょうか。

ミニストリーの一貫性に関する考察

7分間で、以下の質問に答えてください。以下の点を考えることによって、続くディスカッションの準備をすることができます。

- ・ 宣べ伝えること、社会的な奉仕、文化的な関わりを一貫性をもって行うことは何故難しいのでしょうか。教義や文化、世界観の側面からその理由を考えてください。
- ・ ミニストリーに対して一貫性あるアプローチを維持していくためには、私たちは何を信じ、何をしなければならぬのでしょうか。
- ・ あなたの戦略に参加しているあなたや他の人たちは、この点に関してどのように行っていますか。評価してください。

ミニストリーの一貫性に関するディスカッション

1. 宣べ伝えること、社会的な奉仕をすること、文化的に関わるのが、私たちの新しいいのちにとって、どれも重要であり、必要であるとするならば、私たちはそれらをどのように遂行していくことが出来るのでしょうか。

・ 各人がミニストリーのこれらすべてを遂行する責任を負っているのでしょうか。もしそうならば、各人がそれぞれの行いに同じだけの時間をかけるべきでしょうか。この点に関して、各人の賜物はどのように関係してくるのでしょうか。

・ これら3つのミニストリーの領域に、私たちの時間を均等に費やすことが可能でしょうか、あるいはそれが最善の方法でしょうか。

・キリストのからだである私たちを分割して、各人がこれら 3 つのミニストリーの領域のうちどれか一つに従事することが可能でしょうか、あるいはそれが最善でしょうか。

2. あなたの実際の経験では、宣べ伝えること、社会的な奉仕、文化的な関わりはどのようにして遂行できるでしょうか。

- ・宣べ伝えること、社会的な奉仕、文化的な関わりに関して、あなたはどのように遂行していますか。
- ・ミニストリーのこれら 3 つの領域は、どの部分で重なりますか。
- ・これら 3 つの領域のうち、あなたにとって他の領域よりも自然に関わることのできる領域はありますか。
- ・一つの領域だけによく関わっていますか。